

ガーナ国における自助努力による新規開田の可能性 Possibility of Self-help Rice-field Development in Ghana

○大須賀 公郎*、藤本 直也**

○OSUGA Kimio*, FUJIMOTO Naoya**

1. はじめに

アフリカにおけるコメ増産に資するため、国際農林水産研究センターは、農林水産省の補助金を得て、2008年からガーナ国アシャンティ州他においてアジア型水田（畦畔構築、代かき、均平、移植を行う水田をいう。）の実証調査を実施した。その結果、導入したアジア型水田では、収量が従来の2.0ton/haから4.2ton/haに増加するとともに、財政的な支援無しによる開田（以下、「自助開田」）を行う農家も出るなど調査の波及効果もあった。一方、この調査では、アジア型の水田を開田するため、労働強度の平準化、農業機械の共同管理及び将来の水管理の観点から、有効であろうと思われる「農民のグループ化」を推奨した。しかしながら、農民は共同作業の経験がなく、新規開田も個人で行いたいとの希望を持つ者が多かった。本稿では、その実態を把握するために行った聴取り調査結果を報告する。

2. 調査方法と時期

圃場の数及び栽培形態（個人あるいはグループ）は、2011年12月に農民への聞き取りにより行った。また、圃場面積の把握は、GPSにより実測した。

3. 圃場配置の事例

図1のNstem Aサイトは、2009年度に補助金により(a)と(b1)の2圃場を新規開田（以下「補助開田」）した。2010年度には、農家Bが(b2)の圃場を自助開田するとともに、農家Cが新規参入し(c)の圃場を自助開田した。

図2のAfariサイトは、2010年度に(d1)圃場を補助開田した。2011年度には、農民Dが(d2)の圃場を自助開田するとともに、農民Eが新規参入し(e)の圃場を自助開田している。

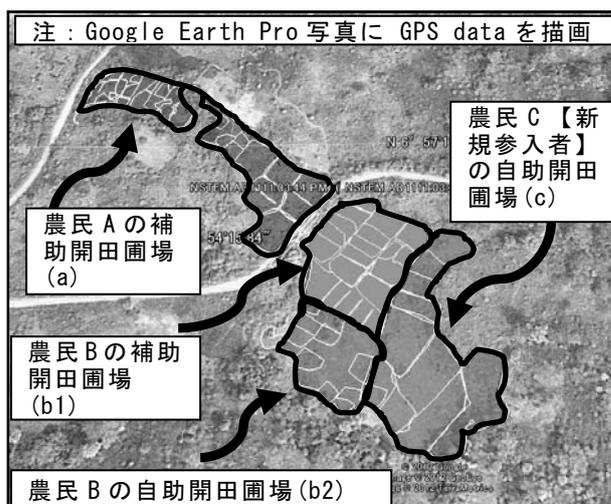


図1 Nstem Aサイトの圃場配置



図2 Afariサイトの圃場配置

*,** 国際農林水産業研究センター

キーワード：アフリカ、開田、グループ化

4. 結果と考察

(4-1) 補助開田の実態

2009年度及び2010年には、各17圃場、計34圃場の補助開田を行った。年度毎の個人圃場数とグループ圃場数、農民数及び面積の経年変化を、表1と表2に示す。

表1 2009年度新規開田圃場の個人圃場数他の経年変化

	2009	2010	2011	増加率
個人圃場数	15	15	22	47%
農民数	15	15	22	47%
面積計 (ha)	14.1	14.1	17.3	23%
面積/圃場 (ha)	0.9	0.9	0.8	
面積/農民 (ha)	0.9	0.9	0.8	
グループ圃場数	2	2	1	-50%
農民数	13	6	3	-77%
面積計 (ha)	2.2	2.2	1.2	-45%
面積/圃場 (ha)	1.1	1.1	1.2	
面積/農民 (ha)	0.2	0.4	0.4	

注：増加率の計算は2009年と2011年の比較

表1から、2009年度に新規開田した個人圃場は、15圃場から2011年度の22圃場に増加していることがわかる。当然ながら農民数も、15人から22人に増加している。面積は、14.1haから17.3haに増加している。逆にグループ圃場は2009年の2圃場から2011年の1圃場に減少し、農民数は13人から3人に大きく減少している。表2からも、2010年度に新規に補助開田した個人圃場数は、2011年には17圃場に増加していることがわかる。ここでグループ圃場数が2010年度の2圃場から3圃場に増加しているが、その中身は、1つのグループが2つに分かれたただけであり、農民数は2010年度の12人から2011年度の7人に減少している。以上のことから、補助開田にあつては、個人圃場数は増加し、グループ圃場数は減少したことが分かる。

(4-2) 自助開田の実態

次に2009年度の補助開田サイトにおける個人圃場数及びグループ圃場数と、農民の自助開田及び新規参入者による新規自助開田との関係を見てみる。結果は表3の通りであった。表3によれば、補助開田農家による追加自助開田及び新規自助開田は、ともに個人により行われている。

(4-3) 今後のグループ化への取り組み

以上のことから、(a) アフリカで新規開田を行うに際し、安易にグループ化を前提として推奨すべきではないこと、(b) 農民の自助開田の意欲が高い場合には、グループ化した場合に得やすい政府補助に対し、個人への資機材提供や融資制度の導入などの個人向けの政策を実施する必要があることが明確になった。

参考文献：1) 国際農林水産業研究成果情報第19号【2011】4. アフリカ内陸低湿地における水田整備及び栽培技術のマニュアル (<http://www.jircas.affrc.go.jp/>)

表2 2010年度新規開田圃場の個人圃場数他の経年変化

	2010	2011	増加率
個人圃場数	15	17	13%
農民数	15	17	13%
面積計 (ha)	15.8	27.5	74%
面積/圃場 (ha)	1.1	1.6	
面積/農民 (ha)	1.1	1.6	
グループ圃場数	2	3	50%
農民数	12	7	-42%
面積計 (ha)	2.6	2.6	0%
面積/圃場 (ha)	1.3	0.9	
面積/農民 (ha)	0.2	0.4	

注：グループ圃場数の増加は、あるグループが2つのグループに分割したためである。

表3 2009年度開田サイトの個人及びグループ圃場と追加(新規)自助開田との関係

	追加自助開田	新規自助開田
個人圃場数	4	4
面積計 (ha)	0.9	2.4
面積/圃場 (ha)	0.2	0.6
グループ圃場数	0	0